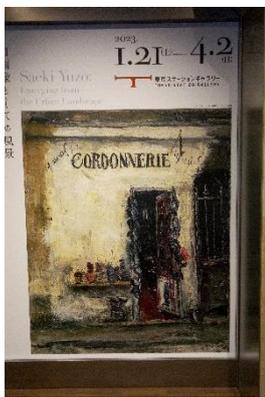


WHO'S WHO 活動報告 2023年3月~8月

私たち WHO'S WHO は、コロナにも負けず、夏の暑さにも負けず元気に活動しています。今回はその活動報告の第2弾をお届けします。

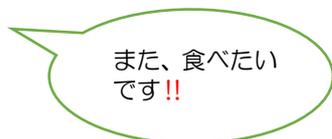
3月 東京ステーションギャラリー 屋上庭園 KITTE ガーデン 佐伯祐三展（自画像としての風景 大阪、東京、パリを描く伝説の洋画家）

佐伯祐三は大阪で生まれ、30歳という短い生涯を終えた画家です。1928年パリで亡くなりました。最期は自覚していたかのように月に30点以上の作品を描き、「郵便配達夫」は2日間で仕上げたそうです。作品は建物の壁などパリの風景や、一時帰国し描いた下落合の風景などの線が印象的でした。帰りにKITTE館の6階屋上庭園から東京駅を眺めました。「屋根の復元工事中、石巻市で保管されていた屋根材のスレートが東日本大震災の津波で流され、2週間かけ回収した」そのような話を聞きながら、小雨に濡れている東京駅の美しい屋根を、上から眺めました。



4月 北千住（宿場町ぶらぶら散歩）

ルートは JR 北千住駅を出発、宿場町通りの観光案内所で様子をたずね、荒川方向に歩きました。シャッターアートに日光街道が描かれおりさすがです。紙問屋だった横山家住宅を通り、かどやで名物の「やりかけ団子」を購入、江戸時代から続く名倉医院を見て、安養院に寄り荒川ビジターセンターの5階で荒川の景色を見ながら休憩しました。帰りは千住大橋方向へ歩き、瀬戸稲荷神社と奥の細道矢立初めの地碑を見ました。お団子は丁度よい大きさでとてもおいしかったです。12600歩、歩きました。



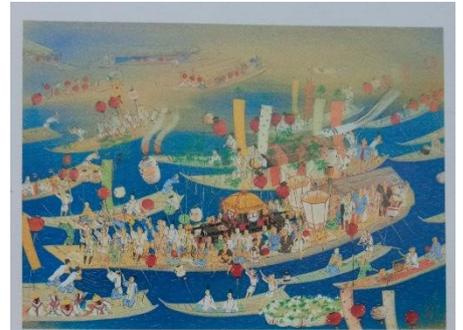
5月 東京ステーションギャラリー (大阪の日本画)

日本橋 高島屋デパート (天皇在位5年・結婚30周年特別展)

日本画で東京と京都で活躍した画家の名前は少し知っていても、大阪で活躍した画家は一人も知らなかったことに気が付きました。島成園は上村松園と並ぶ画家だそうです。「祭りの装い」では、女の子たちの着物の違いや表情に注目しましたが、地に着かない愛らしい足元も印象的でした。今年は天皇在位5周年・ご結婚30周年で、高島屋デパートで特別展が開かれています。高島屋正面入り口のホールでは、パレードで使われた車が目に留まりました。雅子さまのローブ・デコルテがすてきで、意外とほっそりしていました。



チラシヤチ
ケットも素
敵です



生田花朝 IKUTA Kacho
(天神祭) 1935年頃、大阪府立中之島図書館



島成園 SHIMA Seien

6月 造幣局さいたま支局工場見学 造幣さいたま博物館見学

造幣局さいたま支局は、2016年豊島区から移転しました。貨幣の製造のほかに勲章の製造、貴金属製品の品位証明が主な仕事です。ビデオ上映の後、工場と博物館の見学をしました。広島支局で材料を溶かし鑄塊を作り、貨幣の厚みに仕上げた圧延版を作っているそうです。圧延版を円形という丸い形に抜き取り、洗浄、模様を厚押し貨幣ができる工程を見学しました。機械化されているとはいえ、検査は人の目で一枚でも足りないが見つかるまで探すそうです。勲章の製造工程では、「現代の名工」といわれる方もおられるそうです。博物館では江戸時代の大判小判やオリンピックメダル、見事な勲章などが展示されています。貨幣の健康診断ができる機械があり、かなり古い10円貨幣を診断してもらい、結果はご覧の通りでした。新しい500円硬貨の偽造防止技術のひとつ潜像は、傾けると角度により文字が見えるそうで、500の00に縦に「JAPAN」と見えました。



3Dのトリック
アート、記念撮影
スポットです



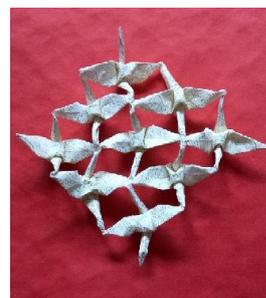
素敵な喫茶店の
ケーキ、美味し
かったです。

7月 おりがみ会館（連鶴の折り方講習会受講） 湯島聖堂

折り紙は、「ORIGAMI」として外国人に人気があります。指先は第2の脳といわれ、指先を使うことは脳を活性化し、認知症予防に効果的だそうです。ギャラリーでは見事で精緻な作品がたくさん展示され、特に豆粒のような青海波という連鶴には値段も含めて驚きました。講習会は真ん中で羽がつながった4羽の連鶴を習いました。配られた綺麗な和紙で練習しましたが、腕がついて来ず綺麗な連鶴になりませんでした。有名な小林一夫館長による巧みな話術と実演に触れることができ、可愛い作品をいただきました。帰りに、近代教育発祥の地である湯島聖堂に寄りました。後日、YouTubeで連鶴の折り方を見ました。こちらの方がわかり易かったです。私たちはこの後も連鶴の練習を続けて、月1回の集まりごとにお互いに教え合っています。



小林館長から
頂いたポチ袋



カエルも小林館長
から頂きました



YouTubeを見て
作りました。憧れ
の青海波、まだ
まだです

8月 東京ステーションギャラリー（甲斐庄楠音の全貌） インターメディアテク

甲斐庄楠音は初めて聞く名前、最初「ただおと」と読めず PCでも漢字ができません。大正から戦前の昭和期に革新的な日本画家として、戦後は映画の時代劇で衣装や風俗考証で活躍しました。日本画は怪しく艶めかしい女性の顔や手の表情と着物が印象的でした。市川右太衛門などが袖を通した時代劇映画の衣装がたくさん展示され、大胆な文様も印象的でした。日本人で初めて、アカデミー賞の衣装部門にノミネートされたそうです。いろいろ、素敵なチラシをもらってきました。

東京駅の隣にあるインターメディアテクは、日本郵便株式会社と東京大学総合研究博物館の協働による、入館無料のミュージアムです。東京大学が1877年の開学より蓄積された動物、植物、美術などの学術標本を見学しました。NHKで放送されている「らんまん」の牧野博士による大日本植物誌も、勿論ほんの少しですが展示されていました。



大胆で見事な衣装、傍に
ポスターもありました



入り口では艶
めかしい女性
がお出迎え